

第52回全国高等学校美術工芸教育研究大会

福井大会

第52回全国高等学校美術工芸教育研究大会が8月19～21日、福井県で開催されました。本大会では足立高校(定)能澤先生、と私(両国高校、中西)がそれぞれの取り組みを発表させていただき、大変貴重な体験となりました。では福井大会の3日間をレポートいたします。



●福井駅を降りると、恐竜のオブジェが迎えてくれました。●会場では大きなスクリーンとたくさんの席にびっくりしました。『こんな大舞台で発表するのか』と。
■夜は顔合わせ会を行いました。主催者の福井の先生方、助言者の先生と発表者で話し合い、ディスカッションのテーマを決めたり、発表の方向性を再検討しました。

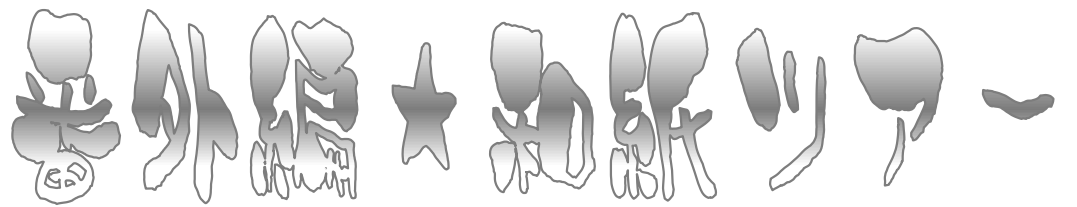


●夜は情報交換会として、ホテルの会場で全国先生方と交流をもつことができました。■去年の秋田の先生方や来年の千葉の先生方は、すごい人数で参加されていました。来年は千葉なので、東京の先生方も参加しやすいと感じました。

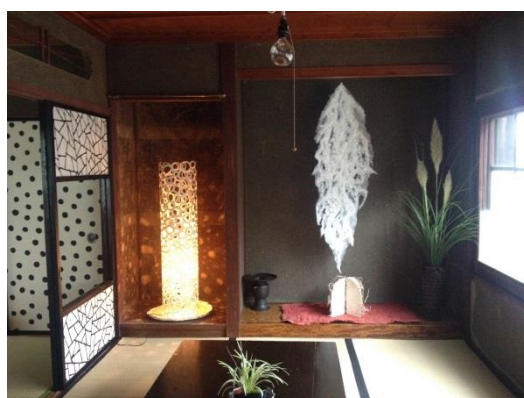
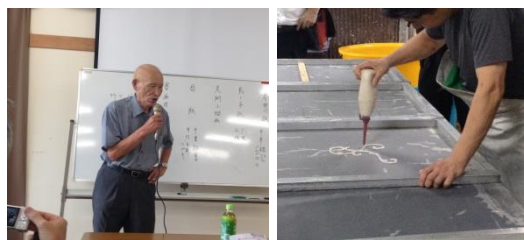
彫刻家、土屋公雄氏の記念講義等、オープニングセレモニーもあり、本格的に福井大会が始まりました。
●今回は教員もアクティブラーニング形式でディスカッションするというスタイルで、各発表ごとにグループ内で意見交換し、内容を深めることが出来ました。■発表者や同じグループの先生方の話を聞き、各県の取り組みを知ることが出来ました。



20分間のプレゼンは非常に短く感じました。自分がどんな発表で、来場者の方々になにか、お土産になる話が出来たかどうかはわかりませんが、今出る力は全て出したつもりです。■三澤先生からは閉会式で「これから大事になるのは数ある21世紀型能力の中で『批判的思考である』という話がありました。また『世の中を変えるのは、若者・よそ者・ばか者である』との話も心に残っています。■今回の発表や福井大会参加は自分自身の授業を見直す良い機会となりました。■まだまだ未熟な私にこのような発表の機会をくださった、福井や東京の事務局や関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



■1日目の打ち合わせで、私のグループディスカッションのテーマが「中高連携の視点から、入学後に初めて取り組む美術Iの題材は、どのように工夫しますか?」となりました。■本校の特色(中高一貫)を活かし、中高の連携や積み上げることで育まれる力に焦点を絞ろうという話になっていたため、スライドを少し変更しました。



■午後は漆芸ツアーと和紙の里ツアーに分かれて研修に参加しました。■和紙ツアーでは人間国宝の岩野市兵衛さんのお話を聞くことが出来ました。(写真中左)かつてレプラントも版画制作に使ったことがわかっている越前和紙の魅力を聞くことが出来ました。■厚めの和紙の注文が入った時は、家族の健康状態を確認して、元気な時に漉くのだとか。■和紙工房の見学にも行きました。(写真中右)長田さんの工房ではイチチンのように和紙を絞りだし、レース状の和紙の作品を制作する姿がありました。「注文がなくても職人は作り続けないと腕が落ちる」という言葉が印象的でした。■長田さんのアトリエはまるで草間彌生作品のような空間になっていました。(写真下)和紙の温かみのある空間に癒されました。